

永明寺古墳(羽生市)

ようめいじ

ここが羽生市下村君にある永明寺



永明寺古墳と記された石碑



前方の木々のところが永明寺古墳/前方後円墳/右手にかけて後円部、左手には前方部が続く



さまざまな石造物がある



鐘楼





右手が後円部、左手が前方部で正面辺りはくびれ部/南側から見ている



古墳時代後期(6世紀初頭)の築造と記されている/羽生市で最大の前方後円墳という/羽生市指定文化財となっている



海老文化史

(1) 永明寺古蹟

永明寺古蹟は、海老市街の南東部にあり、昭和10年に発見された。古蹟は、永明寺の遺構であり、寺の礎石や石段の残骸が確認された。また、寺の境内には、古蹟の発掘現場が整備されており、古蹟の発掘現場の様子が写し込まれている。

(2) 永明寺のイチョウ

永明寺のイチョウは、寺の境内にあり、樹齢100年以上と推定されている。このイチョウは、寺の歴史を伝える重要な文化財であり、毎年秋になると、美しい黄色の葉を咲かせる。イチョウの葉は、古蹟の発掘現場にも見られる。

(3) 永明寺石燈籠

永明寺石燈籠は、寺の境内にあり、高さ約1.5メートルの石燈籠である。この石燈籠は、寺の歴史を伝える重要な文化財であり、毎年秋になると、美しい黄色の葉を咲かせる。石燈籠の石は、古蹟の発掘現場にも見られる。

(4) 遺構の跡

遺構の跡は、寺の境内にあり、古蹟の発掘現場で見られる。この遺構は、寺の歴史を伝える重要な文化財であり、毎年秋になると、美しい黄色の葉を咲かせる。遺構の跡は、古蹟の発掘現場にも見られる。



文化財を大切に 禁止中教育委員会

海老文化史

辨法阿闍梨如來立像

辨法阿闍梨如來立像は、海老市街の南東部にあり、昭和10年に発見された。この立像は、辨法阿闍梨の坐像であり、高さ約1.5メートルである。立像の石は、古蹟の発掘現場にも見られる。



弁達婆伽母坐像

弁達婆伽母坐像は、海老市街の南東部にあり、昭和10年に発見された。この坐像は、弁達婆伽母の坐像であり、高さ約1.5メートルである。坐像の石は、古蹟の発掘現場にも見られる。



文化財を大切に 海老市教育委員会 禁止中教育委員会

指定文化財

(1) 永明寺古墳 (史料 羽生市指定第8号 昭和36年11月6日)

村寄古墳群の北端ともいえる古墳です。竪穴のような形をした前方後円墳で、昭和6年に前方部の下を掘ったところ石室が発見され、カブト、ヨロイ、刀などの武器と、罫、鏝、墨練などの器具、鋸などの工具が出土しており、ここに埋葬された人物のこの地方における役割を窺わしています。周長は11米で、全長約78メートル、高さは前方部、後円部ともほぼ同じで約7メートルあります。比較的風化状態が良く、遺物や墳丘の状況から、石室初期築に築造されたものと思われる。

(2) 永明寺のイチョウ (天然記念物 羽生市指定第52号 昭和44年6月26日)

イチョウは古世代末に出現し、生きた化石といわれており、進化の過程がたどれたり、先祖返り現象が見られるなど学術的に貴重な植物です。中国原産で、戦国後の渡来とともに日本に持ち込まれたとする説があります。雄雌に分かれる植物で、この樹は雌株ですが、珍しく大きく生長しています。高さ37.5メートル、樹冠の直径は4.85メートル、根回りには7.7メートルもあります。推定樹齢は500年を超えるものと思われる。

(3) 永明寺石造二王像 (彫刻 羽生市指定第44号 昭和56年6月29日)

一般的には「仁王」の字を用いますが、永来は「二王」です。尊名では金剛力士と呼ばれています。釈尊の身邊にあって護身の役をにない、暴徒の像でしたが、中国で寺門の左右に安置され、一対のものとなり、中国古来の力士の形にちなみ、彫形が一般的となりました。その性格上獅子を威嚇する形をとっています。口が開いている方が阿形で、閉じている方は吽形といい、万物の始まりと終わりを象徴しています。像の背面には銘があり、1673年の建立です。阿形像の高さは186.7センチで、吽形像の高さは190.0センチです。この像は、石を材質とした珍しいものです。

(4) 薬師尊の額 (書跡 羽生市指定第48号 昭和60年8月1日)

永明寺古墳の後円部墳頂上に建つ薬師堂内に安置された「木造薬師如来坐像」(県指定文化財)の正額上部にかかげられています。木製で漆塗り、金文字で彫書され、草書体で書かれています。1368年の作で、これを書いたのは当地出身の秋山文林(1823年-1900年、通称隠吉、薬師、竹定と号す)で、書に添っていました。また、寺子屋の師匠として、子弟の教育に力を注ぎ、地元にはその業績をたたえた石碑があります。

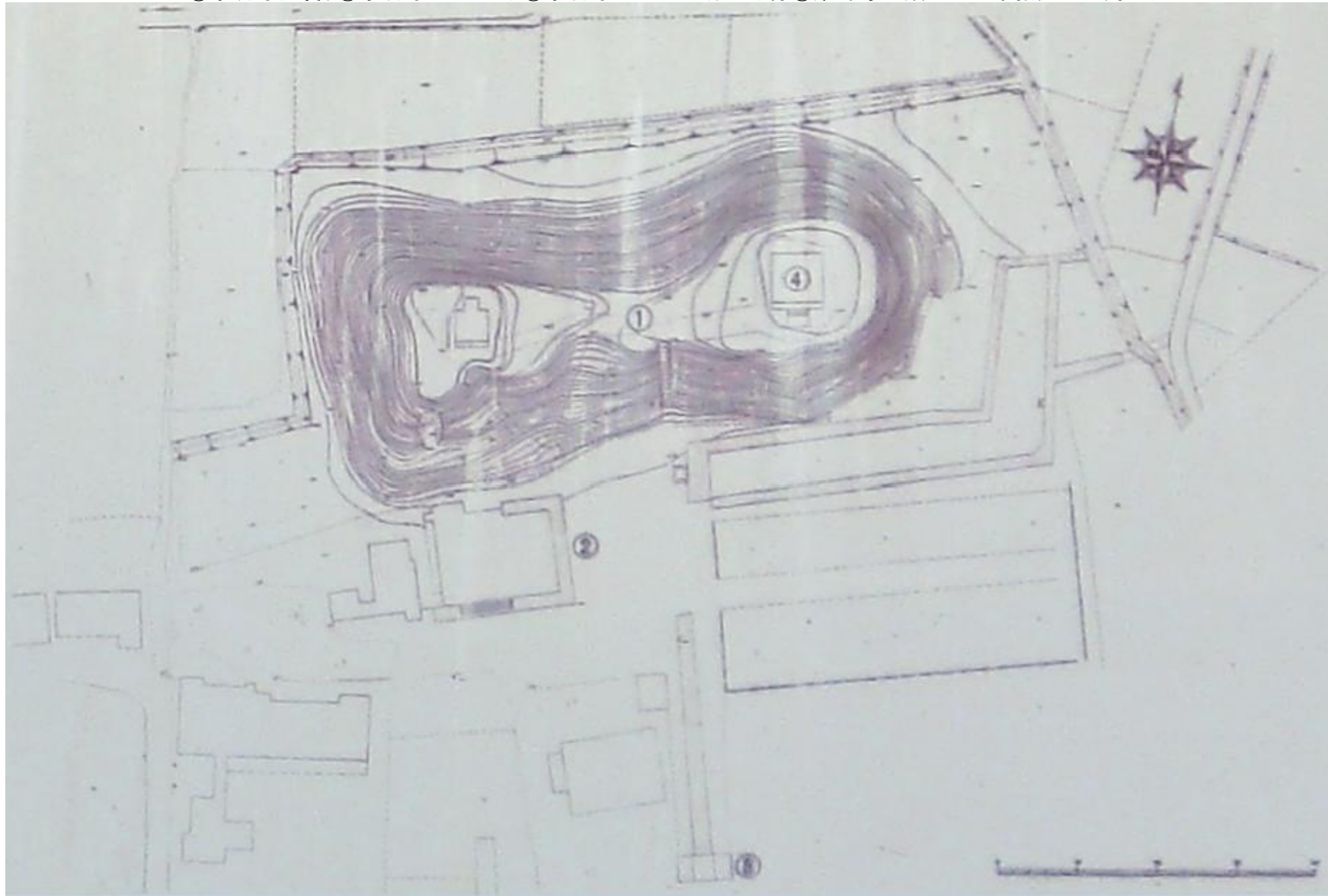
平成7年3月20日



文化財を大切に

羽生市教育委員会

①永明寺古墳、②永明寺のイチョウ③永明寺石造二王(仁王)像④薬師尊の額が羽生市指定文化財となっている



銅造阿弥陀如来立像、木造薬師如来坐像も羽生市指定文化財となっている

指定文化財

銅造阿弥陀如来立像 (有形文化財 彫刻 埼玉県指定第45号 昭和30年11月1日)

東国を中心として全国で数多く作られた善光寺式阿弥陀三尊の模像の一つです。その多くは銅製で、像高が50センチ前後でした。この像の像高は47.9センチです。全体を同時に鑄造し、両手先のみ別に鑄造しました。胸前に火肌があり、火災を受けた可能性があります。光背、台座、両脇侍を欠いていますが、形の美しさ、顔立ちの良さと鑄造彫刻の優品といえるものです。



銅造阿弥陀如来立像
(埼玉県立博物館蔵)

木造薬師如来坐像 (有形文化財 彫刻 埼玉県指定第95号 昭和33年3月20日)

薬師如来は治病、推業等の現世利益をもたらすことから日本では重用されました。この像はヒノキ材を用い、漆を塗り、胴部は前後二枚切ぎ、脚部は左右二枚切ぎの寄木造りで制作されました。細い増髪(髪の色)、面相や衣文の表現など定朝様の特徴を表すことから、造られたのは平安時代末と推定されます。また、この像の内側には貞治六年(1367年)の修造と銘があり、玉喉の嵌入はその時に行ったのでしょうか。像高は84.8センチです。



木造薬師如来坐像
(埼玉県立博物館蔵)

平成7年3月20日

文化財を大切に

埼玉県教育委員会
羽生市教育委員会

東側から西方向を見る



西側から東方向を見る



前方部南西の角の辺り



南西角から北方向を見る



少し進んで南方向を振り返る



北西角から東方向を見る



少し退いて全体を見る/北西方向から見ている/右手前が前方部、左手奥が後円部



北東方向から見ている/左手前が後円部、右手奥が前方部



これは東側から後円部を見たところ



アップで見る



後円部の東側法面であるが、何か改造しようとしているのか



さて、墳丘を登って見よう/これはくびれ部辺りに登る階段



こちらは前方部辺りに登る階段



こちらの階段を上って前方部を見てみよう



前方部の墳頂に建つ文殊堂



振り返ってみる





文殊堂の周りを廻ってみる





右手前方は後円部方向



後円部墳頂に建つ薬師堂が見える/左手石碑から右手階段の手すり辺りはくびれ部





仙元大菩薩と記された石碑



くびれ部辺りから下を見る



後田部墳頂に建つ薬師堂



昭和6年にこの薬師堂の下を発掘した時に石室が見つかったという





薬師堂の周りを廻ってみる



左手前方は前方部方向





さまざまな石造物がある





前方は前方部墳頂に建つ文殊堂



右手法面を見る



この辺りはくびれ部



左手を見る



こんな感じ



文殊堂



右手法面を見る



さて、こちらにもさまざまな石造物があった









宝篋印塔



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/hanyu_youmei/

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/70_hnyu/murakimi.html

<http://kagura.wa-syo-ku.com/%E6%9C%AA%E9%81%B8%E6%8A%9E/%E6%B0%B8%E6%98%8E%E5%AF%BA%E5%8F%A4%E5%A2%B3>

<http://blog.goo.ne.jp/kuni-furutone118/e/f604193665ba3cff095e57dcbbb759d2>

